

《2021年6月（通算296回）限定サロン報告》

NPOサロン総会後の意見交換会
ーコロナ後の持続可能なあり方をめぐってー

【日 時】 2021年6月19日（土）16：20～18：15（終了後はオンライン懇親会 ～21：00）

【会 場】 オンライン（Zoom）

【テーマ】 NPOサロン総会後の意見交換会ーコロナ後の持続可能なあり方をめぐって

【演 者】 中塚義実（NPO法人サロン2002理事長／筑波大学附属高校）

【参加者10名】 注）★はNPO 会員

★石原俊秀、磯和明、★小池靖、★笹原勉、★嶋崎雅規、★関秀忠、★茅野英一、★中塚義実、
★本多克己、本郷由希、

【報告書作成】 中塚義実

【目次】

はじめに

- I. 総会報告「持続可能なNPOへ向けての“改革元年”」（中塚義実）
- II. 「サロンファミリーの約束」について（ディスカッション）
- III. 2021年度の事業についてー月例サロンと公開シンポジウムを中心に（ディスカッション）

はじめに

NPO法人サロン2002の通常総会のあと、サロンファミリー限定の意見交換会が開かれた。中塚理事長からサロンファミリー宛に事前に送られたメールを転載することで「はじめに」に代えたい。

限定サロン（意見交換会）での話題例 (2021年6月12日)

次のようなことについて自由に意見交換したいと考えます。

1. 「サロンファミリーの約束」について

従来「スポネットサロン2002規則」と呼んでいたものを、この機会に見直しています。ファミリーの位置づけや、会費と得られる対価を明確化しようとしています。NPOサロンで定めるものですが、ファミリー全体で意見交換したいと考えます（「案」を近日中に送信します）

2. 2021年度の各事業について

3. 2022年度以降の持続可能なNPOサロンについてーサロン2002のこれから

サロンファミリーの約束について (2021年6月13日)

昨日送信したとおり、今週末の6月19日はNPOサロンの総会です。そして終了後にサロンファミリー限定で意見交換会を行います。

「サロンファミリーの約束」のたたき台を以下に貼付します。もともとあった「スポーツ文化ネットワーク（スポネット）サロン2002規則」と対比させながらみておいてください。あらかじめご意見等をいただけると幸いです。2022年度より運用していく予定です。

<サロンファミリーの約束（たたき台）>

◆サロンファミリーとは

スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げるNPO法人サロン2002が運営するネットワークです。

“志”に賛同する方であればどなたでもファミリーの一員になることができます。

◆サロンファミリーになるには…

1) 個人情報の提供

連絡を取るための以下の情報を事務局にご提供ください。

・氏名 ・Eメールアドレス 注) 電話番号、住所は任意です。

2) 会費の納入

年会費5,000円（2022年度よりアップ）をご入金ください。

◆サロンファミリーになれば…

1) 情報が得られます

・メーリングリストに登録され、月例サロンの情報が定期的に送られてきます。

・サロンファミリー限定のSlackに登録することができます。Slack内で互いに自己紹介し、トピックごとに意見交換をすることができます。

2) NPOサロン主催事業の参加費が優遇されます

・月例サロンは参加費1,000円（オンラインの場合500円）必要ですが、サロンファミリーは無料です。
・公開シンポジウム等、NPOサロンが主催する事業における参加費が優遇されます。

3) NPOサロン主催事業に関わることができます

NPOサロンでは“志”の実現に向けて様々な事業に取り組んでいます。それらの事業にスタッフとして関わることができます。

4) “同志”とつながることができます

年齢、性別、国籍、身分や立場など、あらゆる壁を超え、“志”に賛同する方々が集まるのがサロンファミリーです。“同志”とのつながりは、このネットワークの最大の財産です。
互いをリスペクトしながら、このネットワークを活かしてください。

◆**サロンファミリーを継続する／退会するには…**

サロンファミリーは年度単位のメンバーシップ制です。年度の途中で入会される場合、年度末まで有効です（1～3月のご入会は翌年度末まで有効です）。

年度ごとに継続・退会の意思確認をさせていただきます。

継続される場合は、3月末日までに翌年度分の会費をご入金ください。

退会される場合はその旨を事務局にご連絡ください。

I. 総会報告「持続可能なNPOサロンへ向けての“改革元年”」(中塚義実)

先に行われたNPOサロン通常総会では次の議案について審議し、いずれも可決された

- 第1号議案 令和2年度 事業報告
- 第2号議案 令和2年度 決算 および 会計監査報告
- 第3号議案 令和3年度 事業計画
- 第4号議案 令和3年度 予算
- 第5号議案 借入の実施

最後に理事長から、2022年度以降の持続可能なNPO法人へ向けての“改革元年”の取り組み、今後の課題について報告があり、その報告を受けて「限定サロン」の議論が始まった。報告は次のとおり。

毎年作成しているNPOサロンの活動報告書の「はじめに」をみておきたい。

コロナ禍でいろんなことを見直す1年となった2020年度は、NPOサロンにとって大きな節目となる年であった。月例会、公開シンポジウムはすべてオンライン開催となり、第5回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップは「新たな様式」で実施できた。年度末発行の広報誌『游ASOBI』第4号にこれらの事業が紹介されている。しかしポッチャ交流会をはじめ、できなかった事業も数多い。

2014年度の法人化以降、自分たちの組織のあり方を見直す機会はほとんどなかった。しかしコロナ禍にあつていろんな事業やあり方そのもの見直しが進められる中、サロン2002も自分たちのあるべき姿、今後の方向性について多くの時間をかけて議論した。理事会はもちろん、情報発信プロジェクト、月例会、あるいは会員・メンバー限定のメーリングリストやSlackなどでも意見交換した。

メンバーメンバーシップについて、これまでのスポネットサロンメンバーを「サロンファミリー」と呼び、会費は前年度中に納めるものとした。「月例会」の名称を改め、「公開サロン」と「限定サロン」に整理した。情報発信についても議論を重ね、HPの見直しを

今年度中に進めることとなった。また組織の担い手の発掘・育成が急務であるとの問題意識を共有した。

2020年度活動報告書「はじめに」より

(略)NPO法人サロン2002にとっても、大きな節目となる年でした。1997年からの通算回数が増え、間もなく300回となる「月例会」は、すべてオンライン開催となりました。はじめは手探りでしたが徐々に慣れ、新たな可能性に気づくこともできました。「With/Afterコロナの時代に向けて」と題した12月の公開シンポジウムは、その集大成と言えるでしょう。さまざまな事業が中止や延期となる中で、「第5回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」を開催できたことは大きな喜びであり、自信にもつながりました。U-18年代のプレーヤーにとって、2020年度唯一の全国規模の競技会は、新たな様式のモデルを示す場となりました。これらの取り組みは2020年度末発行の「広報誌『游ASOBI』第4号」で紹介されています。いずれもtoto助成を受けて実現した事業です。自前資金の確保は依然として大きな課題ですが、“志”を実現するための事業に積極的に取り組むことができるようになったのは法人化のメリットの一つです。このほか共催事業として、年末にオンラインで「ケーベルタン-嘉納ユースフォーラム2020」を実施しました。高校生向けのオリンピック教育事業です。1年延期となったTOKYO2020についてはさまざまな議論がありますが、「オリンピックを教育に」のメッセージは、オリンピック・パラリンピック競技会の開催可否にかかわらず、今後とも発信し続けていきたいと思っております。

引き継ぎ「Withコロナ」となる2021年度は、持続可能なNPOへ向けての“改革元年”と捉えている。2022年度以降の「Afterコロナ」を見据え、“志”に賛同するサロンファミリーを増やし、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”に邁進していく所存である。

2020年度活動報告書「はじめに」より

2014年度の法人化以降、私たちはさまざまな事業に主体的に携わることができるようになりました。その一方で、自分たちのことを見つめ直す機会ほとんどありませんでした。2020年度は、「いまのままでもいいや」と放置していた課題がさまざまな形で噴出した1年でもありました。本報告書には記載していませんが、自分たちのあるべき姿、今後の方向性について多くの時間をかけて議論しました。

メンバーシップについて改めて考えました。NPOの意思決定にかかわる正会員と“志”に賛同する仲間をあわせ、「サロン2002ファミリー（通称サロンファミリー）」と呼ぶことにしました。閉鎖的なイメージがあった「月例会」の名称を2021年度より改め、参加者を広く募る「公開サロン」と、ファミリー内で濃い議論をする「限定サロン」に整理しました。情報発信のあり方についても見直しを進めています。組織の担い手の発掘・育成も急務です。持続可能なNPOへ向けての“改革元年”です。

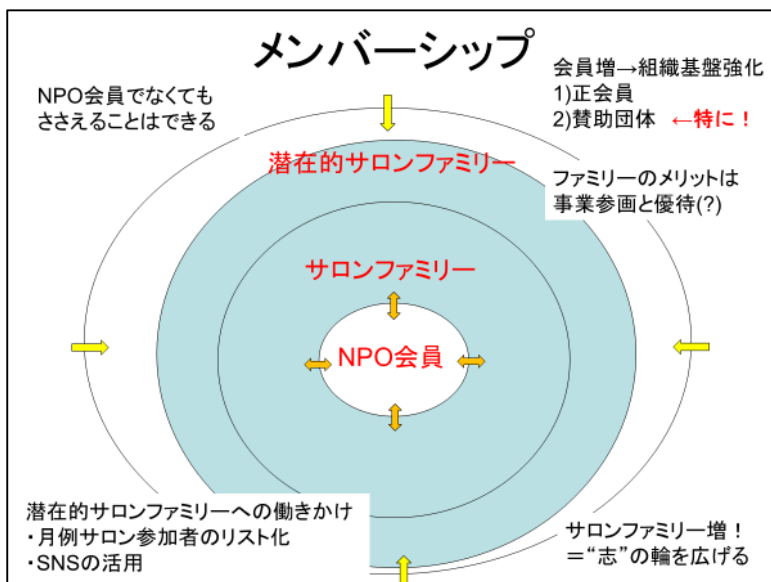
まだまだコロナ禍は続きます。引き続き「Withコロナ」の時代と言えるでしょう。

その先の「Afterコロナ」を見据え、“志”に賛同するサロンファミリーを増やし、スポーツを通してのゆたかなくらしづくりに邁進していきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

“改革元年”の取り組みは右スライドのとおりである。

“改革元年”の取り組み

- ◆会費は前年度中に納入 → 組織の基礎体力
 - ・メンバーシップの明確化
 - ◆「サロンファミリー」に名称変更
 - ・“志”に賛同する人たちのゆるやかなファミリー
 - ◆月例会は「公開サロン」「限定サロン」に（「月例サロン」）
 - ・多くの人に情報を届けたい。
 - ただし「わかっていない人」には来てもらいたくない
 - ・「公開シンポジウム」の拡充 → 2021年度については未定
 - ◆情報発信のあり方の見直し（2021年度中に）
 - ・HPの改修 → 予算35万円／スタッフ募集
 - ・広報誌or情報誌『游ASOBI』の位置付け → 理事会で議論
 - ◆持続可能なNPOへ向けて
 - ・「担い手」の発掘・育成
- プロ意識を持ったボランティアとボランティアスピリッツを持ったプロ



メンバーシップは左図のとおり、三層構造でとらえている。意思決定に関わるNPO会員と、意思決定には関わらないが“志”に賛同する“同志”であるサロンファミリーを増やしていくことが重要である。会費以上の入金をされ、組織をささえてくれるサロンファミリーもいらっしやることから「NPO会員でなくてもささえることができる」と考える。また「賛助団体」を増やすことも組織基盤強化には重要である。

また、サロンファミリーの外側には潜在的サロンファミリー層が広がっている。公開サロンや公開シンポジウムに一度でも参加された方、あるいはボッチャ交流会などのイベントに関わられた方とつながりを保つことで潜在層に働きかけ、もっともっと広げていきたい。さらにその外側にいる人たちにも情報発信していきたいと考える。

財務構造の見直し—まずは基礎体力から	
◆2021年の基礎体力	
・NPO会員	10,000円×29名=290,000円
・サロンファミリー	3,000円×65名=195,000円
・賛助団体	30,000円×0 = 0円
	計485,000円
↓	
◆持続可能なかたちにしていくためには、例えば...	
・NPO会員	10,000円×40名=400,000円
・サロンファミリー	5,000円×100名=500,000円
・賛助団体	30,000円×4団体=120,000円
	計1,100,000円
サロンファミリーは、NPOサロンの事業への参加費無料	
2022年度から導入できるよう、2021年度中に意見交換	

組織を維持していくための管理費となり、中核事業を気兼ねなく進めていくためにも、組織の体力を高めることが必要である。2021年度は485,000円が基礎体力に当たる部分であるが、これをより大きくしていきたい。ファミリーを広げていくこと、また会費の再設定をすることで基礎体力を高める方策を検討したい。

そのためにも、情報発信のあり方を見直す必要がある。ファミリー向けのメーリングリストやSlackをもっと活用していくとともに、今年度中にホームページを改修し、S

NSを活用してターゲットごとに情報を的確に発信できるようにする。35万円の予算を計上した。

2022年度から導入できるよう、少しずつ改革を進めている。

総会後の限定サロンでさらに濃く意見交換したい。

<以下、「限定サロン」での意見交換>

中塚：チャットの方に徳田さんからコメントがありました。サロンファミリーのカテゴリーに「スポンサー」を入れられないかというご提案です。いま「賛助団体」という枠があるが、それだと会員になる。意思決定には関わらないけどスポンサーになりたい人がいるのではないかという意見のようだが。

茅野：私も徳田さんのコメントを読んで、ひとによって語感がずいぶん違うのだなと感じた。私の感覚ではスポンサーと賛助会員はまったく同じ。どちらも金を出すけど口は出さないと受け取るが、徳田さんはそうは受け取っていないようだ。会員制度の中にと受け取られているのかもしれませんが。そのようにとらえる人がいるのであれば、賛助団体をスポンサーと言い換えるのもありかと思った。

中塚：以前は本多さんのシックスが賛助団体に入っていた。けど本多さんは正会員であり、賛助団体代表として出ていたわけではない。正会員じゃない賛助団体はこれまでなかった。

本多：以前に安藤さんの会社と、田中さんの病院が賛助団体になっていた。議決権を持たない、スポンサーに近い立場である。参考情報として、これまでもサロンにはスポンサーがあった。事業ごとのスポンサー。U-18フットサル大会では加茂商事や多摩大学が協賛企業、スポンサーとしてお金を出してください

っていた。賛助団体についてはサロン2002の活動全体に対する賛助ということで資金援助いただくということ。企業側の都合でいうと、賛助団体への支払いは会費・諸会費で支払い、スポンサーは広告費。いずれにしても経費なので、企業側からは大きな違いはない。

中塚：石原さんがようやく姿を見せられるようになりました(笑)。石原さんも会社を経営されている立場でどうですか？

石原：スポンサーの考え方として、その会に情熱を持って参加したいというのはある。会社としてみたときに経理的な処理というのは本多さんが言われた通り。経営者の考え方かもしれないけど、スポンサードする場合、コマーシャルとして捉えるのが多いような気がする。外国でいうパトロンの考え方。僕らの田舎では財を成した人が社会に奉仕、お返しをするというのがパトロンの考え方。この会に関しては、いろんな意見交換、考え方の共有ができ、私としても参考になるし、企業的に余裕があればサポートもしたいという気持ちはある。ただご時世として、他の役員の意見を聞くと、いまは自分が大事じゃないかということもある。ご意見に対しては賛同します。

中塚：個人ではなく、組織としてサポートしてくれる企業、賛助団体を増やしていきたいのはもちろんだが、スポンサーという枠を改めて作る方が良いかというのは議論が必要。私も、賛助団体は議決権を持たないスポンサーというイメージを持っていた。事業ごとにスポンサーを募るのは従来もやっていたので、これからもやっていきたい。

笹原：定款を読むと、正会員だけが社員で議決権を持つとなっている。では賛助団体の会員というのはどういう立場なのか。議決権のない会員？

中塚：文字通り賛助するだけの団体。

笹原：それだったら会員である必要があるのか。

関：賛助団体は会員に位置付けられていて、徳田さんの問題意識はそれとは異なる枠を設けるべきというもの。中塚先生と本多さんの意見をあわせると、賛助団体を第6条から削除するのがよいのではという意見と考えられる。賛助団体を外し、それ以外のスポンサーを設けるという徳田さんのご意見に私は賛成。

中塚：するとこの書き方はどうなるのだろう。「第6条 この法人の会員は次の2種とし～」 「1 正会員」だけでいいのかな。

茅野：会員が一番の権利は総会で発言し権利を行使すること。それを持たないということは会員である意味がない。私の理解は、事業ごとではなく、組織そのものにスポンサードすることが賛助団体。Jクラ

ブでも例えば通年で50万払ったらプラチナメンバー、10万払ったらブロンズメンバーなどというのがある。

本多：定款を決めるときの議論にあったが、正会員は個人、賛助は法人と決めていた。ほかのNPOだと正会員に法人が入っているものもある。議決権を持っている個人・法人。賛助会員はお金だけ払って議決権はいらぬという個人の賛助会員もある。サロンの場合、正会員は個人のみで賛助の場合は団体。

笹原：そうすると賛助団体は、会員というよりもサロンファミリーに入るのではないかな。

茅野：JFAもそういう立て付けになってませんでしたっけ。

中塚：そうですね。フットボール学会もサロンと同じだったと思う。個人会員のほかに、年間を通して賛助してくれる賛助団体がある。もう少しほかの団体の立て付けを調べて、別途議論しましょう。ただ、いまの我々の立て付けでも、議決権はいらぬけどスポンサーしたい団体を受け入れられますよね。

本多：そうですね。賛助団体というのはそういうもの。

茅野：賛助団体というものがメンバーシップ制の中で拘束される印象をお持ちの方が多いとすると、賛助団体という言い方はやめてもいいというのが先程の私の発言の意図。

石原：私は個人と経営者の立場があり、サロンには個人で参加している。スポンサーとしたとき、議決権を持つと二つの立場になる。二つの議決権を持つというのはおかしい。企業としては応援したいという考え方をもち、その場合は議決権を持たないというのが正しいのではないかな。

中塚：金は出すけど口は出さないというのが、OB会組織では正しいあり方ですね(笑)。

石原：意見を言いたいときは個人で出すということです。

II. 「サロンファミリーの約束」について

中塚：その話とも関係するけど、会費の設定を含め、「サロンファミリーの約束」について話をしましょう。これまであった「スポネットサロン規則」を、「約束」というかたちでやわらかくまとめる方向についてはいいですね。中身について、まず「サロンファミリーとは」、そして「サロンファミリーになるには」のところで、「“志”に賛同する方であればどなたでも～」と記しています。ここに一つポイントがあります。これまで Give and Take という言葉を必ず入れていたけど、今回はあえて入れていません。敷居を下げた形になっています。志に賛同する方ならどなたでも受け入れられますよということ

です。連絡先の提供や前年度中に会費を納めてくれれば、ここのところについてはどうでしょう。小池さんが、事前のコメントでこのあたりに言及されていたようですが。

小池：理事会にオブザーバーとして参加させてもらった際にも、Give and Takeの議論がありました。言ってみれば、オリンピックはアマチュアでやろうよという精神は美しかったけど、現実はなかなか難しいというようなことを、サロンでも感じているということです。明文化はされなくても、Give and Takeの精神についてはどこかで我々が伝えていくのでよいのではないのでしょうか。サロンファミリーになるべく多く募るためには、こういうかたちでバージョンアップするのもありかなと思います。

本郷：Give and Takeを入れなければ入ってくれる人が増えるのかどうかがよくわかりません。何かGiveしないと…とずっと考えながら入っているのもよいのではと思うので、従来通りあってもよいのではと思います。

中塚：自分には何がGiveできるかを考えながらいてもらうのは大事な視点で、これまで大事にしてきたことですからね。最低限のGiveは会費を払ってもらうということ。そもそも会費を払わないとファミリーの一員ではなくなります。Give and Take をハードルとして感じる人がいるのなら、「約束」からは外してよいのではと感じている次第です。

嶋崎：外してよいのではと思うのですが、たぶんこれから議論される「ファミリーになるメリット」と天秤だと思います。メリットを増やしてファミリーを増やそうであればなくしていいと思うし、従来通りであるならあってもいい。そこが分岐点。メリットを増やしてファミリーを増やすという視点。

中塚：では次のところも併せてみていきましょう。「サロンファミリーになれば」です。情報が得られるのが一番大きいのではないかと。MLに登録され、Slack登録可。主催事業の参加費優遇も結構なメリットになるのではと思う。2022年度からは月例サロン参加費1,000円、オンライン500円にしたいけど、サロン会員は無料。主催事業に関わることができるについて、ファミリー外の人に関われないのかということそうではないけど、サロンファミリーに情報が届くのだから関わりやすい。そして4番目の「人とのつながり」について。以前は個人情報満載の名簿の存在が大きかった。同志とつながることができるのがこのネットワークの最大の財産だと思う。どうでしょうか。もっとこういう観点があるというのがあればご意見いただきたい。

笹原：MLへの登録は、潜在的サロンファミリーにこそやるべきと思っています。買い物したりレストランで食事したりすると登録されてメールが送られてくるのと同じイメージ。前にも言ったことがありますが。

中塚：月例サロンに来てくれた人にはもれなくMLの情報が行くというイメージ？

笹原：フットサルとかボッチャとか、イベントに参加した人には送っても悪くないと思います。

嶋崎：笹原さんの意見に同感です。そうするとファミリーになるメリットは参加費の優遇になるのかなと思います。ファミリーになったら無料ですよというところをメリットとして掲げていけばよいのでは。かつ若干の会費の値上げがあってよいのではと思います。

笹原：もう一つ、いまHPで誰に対しても月例会報告が公開されていますが、これもファミリーのメリットにしてはどうか。

中塚：成果をより広い人に伝えていきたいというのが我々としてはあるので、ファミリーだけしかみられないというのは…

笹原：世の中にタダで広げなくてもいいわけで、情報がほしい人には広げられるのではないかな。

嶋崎：情報を見たい人はファミリーになるのではないかな。HPである程度のところまでは誰でも見られるけど、そこから先はファミリーでないと見られないように。エッセンスは公開するけど深いところは留めるというやり方もある。

本郷：すべてを無料公開、すべてを会員だけというようにしなくても、最近のだけは誰でも見られるなど、新しく入った人にこういう活動をしているのがわかった方がよい。例えば年1回の公開シンポジウムや最近のものは公開、あとはファミリーのみに公開など。有料会員になってない人へのつながりを考えるとMLは持っておくのがよいのではと考えます。

茅野：「Give and Take」の話とも絡んできますが、笹原さんが言われたように、企業は自分の商品を展開するのにMLに入ってもらって一方的に送り付ける。ではサロンはというと、サロンの公開シンポジウムにしても情報誌にしても、「われわれはこういう議論をしている」ということを広めたいのだと思うわけです。「志」を持つ者が一緒に作っていきこうと呼びかけをしている。呼びかけの対象者は、これからお金払って入ってもらいたい人です。そこに我々が情報発信することに価値がある。それを有償で受け取りたいというよりも、こういう活動をやっているサロンと一緒に情報発信していきたいと思ってもらえる人がファミリーなりNPOの一員になる。我々がやっていることは世の中みんなに知ってもらいたい、共感を求めたい。その人たちに対して「金を払って教えてやる」というのはちょっと違う。金払っても「一緒にやってやりたい人」になってほしい。もともとあった「Give and Take」の概念は、情報を受け止めるだけでなく、一緒に情報を作って発信していく、だからTakeなんだ、ファミリーやNPO会員はまさにGive and Takeなのだ、そういうふうにつながっていくと思って聞いていた。どうすればよいのかはよくわからないけど、そのあたりが整理できればいいのではないかな。このように考えると、同志の話を少し引きながら4番目に入れておられたが、同志を求めるのが先にあったのではないかな。情報と交流でいうと交流のところ。「交流するためには会費を払ってよ」というところを、ここをもっと上位に置く方がよいかもしれない。

笹原：同志とつながることができるというのは、はじめた頃は名簿。いまはSlackでやろうとしている。

1) の2番目に書いてあることと同じなのでは。

茅野：ツールとしては同じだけど、単にSlackでの情報交換とは違う。

中塚：かつて濃い名簿があった時代は、このネットワークにどのような人がいるのかはすぐわかったのだが、いまは意欲的に事業に関わらないとどんな人がいるかわからない。だからといってSlackへの登録もまだ半分ぐらい。どうしていったらよいでしょうねえ。

笹原：同志とつながるのはとても大事。Slackのことは一番ではない。

中塚：順番を変えましょう。同志とのつながりが最も重要。

これとは別の話になるけど、記念グッズのようなものはありますか？ かつてサロンのポロシャツを作ったことがあってなかなかよかったんですよね。

茅野：今日総会だからあれ着なきゃと思ったけど、洗濯機の中でした(笑)

中塚：「サロンファミリーの約束」にもっとこういうことを盛り込んでおいた方がいいのではということはありませんか？ 最低限のものでよいと思うけど。

笹原：会費はどうします？ 私はお得感を出すためには、月例会に3回行けば元が取れますとか、シンポジウム2000円だとしたら1回で元が取れますぐらいのレベルがいいかなと思います。ただ足腰を鍛えるためにはある程度収入が必要。メンバーを増やすために、会費はちょっと安めにした方がよいと思います。

中塚：それで年会費5,000円を仮の数字として入れているけど。

笹原：もっと安いイメージですね。これだと月例サロン5回分ですよ。

小池：いまを基準に考えると月例サロン2回分ですよ。5,000円ぐらいでよいと思います。

茅野：月例サロン1,000円で3回分で3000円。

笹原：3回で元が取れるために3000円にしたらどうか。

茅野：ここだけの話ができる限定サロンができた。「秘密結社の会合に出られます(笑)。スポーツ界の深部・暗部を共有できます」みたいな。

笹原：ファミリーにならないと得られない情報が得られるというのはいいですね。

茅野：「みんなで語り合います」、かつてはそんなのばかりありましたよね。

小池：報告書の公開について。笹川スポーツ財団は結構労力かけて作っているものがある。公開サロン、限定サロンごとに紐づけるのか、発表者ごと、あるいは公開する部分と限定の部分の2段階構えでつくるのか。いろんな考え方があろうと思うが、一部を非公開にするのは賛成。

茅野：公開サロンや公開シンポジウムはバンバン宣伝したい。でも限定サロンは秘密結社。そういう雰囲気は漂わせたい。

石原：慶応の交詢社のようなものですか。慶応の秘密団体。一回行ったことがあります。ここで政治が決まるという…

中塚：磯さんいらっしゃいますか？ 最近入会された立場から、ここまでの議論の感想などを。入会前は外からみておられたと思いますが。

磯：最近参加させていただいた者としては、個人的な気持ちとして、思いには賛同しているので、そういうことを実現されている同志の方と一緒に行動していると楽しそうだなというのが参加動機。Give and Takeとか深く考えずに、おもしろそうというので参加させてもらっています。

中塚：「なんかおもしろそう」が大事ですね。おもしろそうに見えるような「サロンファミリーの約束」。どうでしょうか、過不足は。関さん、法律の専門家としていかがですか？

関：約束を決めてから何をしていくかを考えるという方向なのでしょうか？

中塚：何をするのも並行して考えていきます。

関：中塚先生からお誘いいただきサロンに入ったときは、何をやっている法人なのかわからず、仲間に「入りなよ」と勧誘しようとは思わなかった。魅力的な法人になることが先決で、メリットやデメリットの話から始めるよりも、何をやっているのか、どこへ向かっていくのかでコンセンサスが得られれば良いのでは。それに近いことをおっしゃっているのが徳田さん。中塚先生がおっしゃっているいままでのサロンのかたちは、その方々が作ってきたことなので違和感はないし、その方向性を否定することは全然ないし、大事にしていきたいと考える。でも、開かれたNPO法人として外に向かって情報発信し事業を広げていこうと思うのであれば、将来のビジョンをもっと明確に示すことをもっとやるべき。徳田さんはそのようなことを問題提起されている。皆で考えがすり合っていればいいなど。お金をどうするかの話はあと回し。例えば1年間を4分割してクォーターごとに何をして、自分はそこで何をするのか。理事はそこに関与する。そういうような流れを作るべき。そのためには、例えば著名な会員を増やして

いくことも必要。サロンの中でなく外向けに出していく。いまやっていることをもっともっとクローズアップする。U-18フットサルは、中にいる人であっても、こんな良い取り組みをしていることを知らない方は多いと思う。例えば、サロン主催のU-18フットサル出場者である、フットサル日本代表になった方とコラボすることもできるはず。サロン会員になればこういうことができますという議論よりも、「こういうことをやっています」というのを打ち出す方が良いと思う。

中塚：前からそういう立場で発言されていますよね。

関：お金をどこに使うかという話。徳田さんは広報に金を用意してくださいと言っていた。35万円では少ないですね。限られた方で語り合うことをメインにするのか、事業を拡大するのか。事業を動かしていくだけのマンパワーは存在していない。徳田さんと他の方の間にギャップがあるなど感じる。

Ⅲ. 2021年度の事業について一月例サロンと公開シンポジウムを中心に

中塚：将来的なことはもちろんだけど、今年度何をするかという話もしておきたい。とくに月例サロンと公開シンポについて。今年度は「スポーツと安全」シリーズで動き出している。その中でトピック的に、WEリーグを8月に取り上げる。チェアの岡島さんが来てくれるのは画期的。8月のどこかでやってもらうことになっている。11月には東京オリパラのことを取り上げられればとの案が嶋崎さんから出ている。そして今年度はJFA100周年。これらを踏まえて公開シンポジウムをいつ、どのような形で行い、どのような情報を発信できるかを考えていきたいと思います。

関：WEリーグの理事の方が話をしに来てくれるなら、皆それまでに一度観戦しておいた方が良いでしょう(笑)。

中塚：理事どころかチェアが話をしてくれる。日本サッカー史研究会で一度話をしてくださった方で、私も同席したことがある。気さくな方です。アメリカ在住だけど、いまはWEリーグ開幕準備で日本におられる。最初はサロンファミリーの江川純子さんに連絡をとったけど、「私なんかよりもっとすごい人に来てもらったらどうですか？」という話になった。

JFA100周年の絡みでは、つい先日、あるテレビ制作会社からインタビューを受けた。最終的にはNHKスペシャルになるような番組にしたいと言っておられたが、テーマが何と中村覚之助。JFA100周年に際していろいろ調べていたところ、覚之助に行き着いたらしい。そしてJFAに聞いてみると中塚を紹介されたという経緯。2009年3月に那智勝浦町で開いたシンポジウムの資料が町のHPに載っていて、それを手掛かりに現地へ赴き調べ始めたとのこと。翌年2月にも都内で2度目のシンポジウムを開き、『熊野の中村覚之助』の冊子にまとめたけど、そのなかみはHPには載せていない。知る人ぞ知るになっている。何とか番組にしたいと張り切っておられた。そういう話とJFAのシンボルマークの話などを絡めて取り上げられないかと思っている。来年度以降は、公開シンポジウムを年2回ぐらいやっていい。それも、東京だけでなく地方に出っていくのもあり。もっとやれないか考える。

関：今年からWEリーグになるのか。

本郷：プレミアのように今のリーグの上に作ったんですよね。

関：WEリーグを8月だけでやるのはもったいない。しかもJFA100周年でビッグネームが来てくださる。シリーズものは大事に育てたいけど、WEリーグを単発で終わらせるのではなく、何か続けていきたい。私は恥ずかしながらWEリーグというものを初めて知った。

中塚：私もWEリーグのことを知ったのは今年の1月。JFAフットボールカンファレンスがオンラインであり、その中の一つのセッションで日本の女子サッカーの発展が取り上げられた。江川さんも関わっておられた。そこでWEリーグのことが紹介され、女性の社会進出を支援しようとか、新しい社会づくりに意識を寄せているリーグだということが示された。一つのスポーツのリーグが生まれるだけでなく、おもしろい切り口で紹介できるのではと思っていた。

嶋崎：月例サロン担当理事からということで。自分としては3回ぐらいスポーツと安全シリーズでやって、その中でシンポジウムでも取り上げる。関さんから提案があったが、脳震盪の話など、公開シンポジウムにつなげていくという流れを考えていた。トピックが入ってくるのはよいが。自分としてはそのような方向で考えている。7月は安松さん。コロナ対策については土肥先生の話がよかったので聞いてみたい。脳震盪の話はできる方がいっぱいいる。それをどこにはめ込んでいくのかは議論してほしい。公開シンポを12月にやるのであれば9月とどこかでやって12月につなげていけばと考える。

関：公開シンポジウムと公開サロンはどう違うのか。

中塚：いまとなっては違いはない。シンポジウムと言えば複数の演者が登壇するイメージだが、公開サロンでもそういうことがある。オンラインだったら準備はそれほどいない。

関：お金のつけ方の問題ですかね。例えば大物を呼ぶときなど。

中塚：我々のルールとして、公開シンポも演者1万円。それで来てくれる人でこれまでやってきた。

関：公開シンポジウム担当理事は私。どういうイメージなのかを理事会以外の人たちに聞いてみたい。

笹原：公開シンポジウムは月例サロンの拡大版。登壇者が多い、時間が長い、大々的な宣伝をして人を集める、そんなイメージですかね。

中塚：それなりの場所で行うというのものもある。

笹原：懇親会で交わるというのも大きい。

関：今年は懇親会ができるのでしょうかね。

中塚：今年はいろんなことが盛りだくさんな年である気がする。東京オリパラがあってJFA100周年やWEリーグ…。全部我々が本腰を入れて取り組んできたこと。それをひとまとめにした「2021年を振り返る」ような企画もありかなと思う。

茅野：確かに一本ずつでも大きく取り上げられることがずらっと並ぶ。横綱そろい踏みのような年ですね、今年は。

中塚：しかも100年に一度のパンデミックの2年目。3年目まではいかないことを期待するが…。2021年末でアフターコロナが見えてくる、ということも含め、2021年を中心に据えてシンポジウムを企画するのもいいかなと思う。思い付きではあるが。

茅野：経済やってる仲間で議論したとき、2021年度いっぱいでの収束は無理だろうと。ワクチンの若者接種率が伸びない、大学生の半分も打たないのではないかというのが今年の後半のこと。加えて、いまのワクチンの有効期間がわからない。インド型の次が出てくると、有効期間の問題にワクチン耐性のウイルスのこともあるので2022年度いっぱい収束しないと考えておかないといけなかったと言われました。集団免疫が獲得できるか、ワクチン耐性を持ったウイルスが出てくるのではないかの二点からです。

中塚：たとえば覚之助のトピック、あるいは八咫鳥などサッカーの歴史ネタで、神戸でシンポジウムをやるという話を本多さんと電話でしていましたが、可能性としてはありですね。

本多：歴史ネタでもいいし、神戸にはINAC神戸があるし阪神ユナイテッドという女子チームで、部活動ではなく芦屋でクラブのかたちで女子サッカーをやっていく話もある。歴史を含めて女子サッカーを取り上げることもできる。全部をまとめるのならJFA100周年の100年目でこんなことがありましたよというまとめもあり。

中塚：100年目でヘディングの指導も変わるわけですね(笑)

茅野：おもしろいですね。100年目は節目の年。パンデミックからの100年、JFA100年、この年に起こった出来事を取り上げるのは大変面白いですね。

本多：今年開催なら96年生きてきた賀川浩さんも参加してもらえるかもしれない。

茅野：賀川さんの場合は四捨五入してサッカージャーナリスト100年でいい(笑)

本多：最近はご自分でも「このままやったら100年やな」と言っておられます(笑)

茅野：賀川さんに登壇してもらえるといいなあ。

中塚：シンポジウムそんな感じでいきますか。

関：去年も月例会で意義のあることをやっていたと思いますが、各月例会のときにサロンとしてはこういう方向でオピニオンを打ち出そうというかたちにして、まとめること、そしてそれを世間に打ち出していくことをしていかないと、月例会ごとに「言いつばなし」で終わってしまうのではないかと。例えばWEリーグのときであれば、サロンとしてはこういうことをWEリーグ関連で事業につなげていきますというのを打ち出せたらいい。

茅野：月例サロンで一本ずつやって公開シンポでドーンと。どうせ2時間じゃ収まりきらない。シンポジウムに全員リアルで登壇する必要はない、オンラインでもいい。月例で一本ずつやって、それらをまとめて公開シンポジウムになだれ込むというやり方は大変面白いと思いました。

嶋崎：自分の考えているのはそういうイメージ。そうでないと月例会のアイデアを出していくのが難しい。スポーツと安全も、シンポジウムでヘディングの問題を取り上げるのを前提で考えていた。それが違うことになるのであれば違う計画が必要。

関：各回で話してもらう方ではなく、こちらが発信するものを決めておき、各回を進め、公開シンポジウムに持ち込む。過去3回のスポーツと安全の中に我々からの発信の中身を用意しておく。NPOサロンとしてはこういう意見が出ていましたと。

笹原：それかなり重いですね

関：重いです

茅野：テーマが重いので、限定サロン、公開サロンで何回やって、それを公開シンポで報告しながら重ねてやっていく。

笹原：テーマでなく、サロンとしての一つの意見を出そうということが非常に重い。

関：いままではそれがバラバラ。去年のシンポジウムも、いろんな話がバラバラに出ていた。それはそれで面白いけど、では「サロンとして何が言いたいのか」が欠けていると思う。そもそもサロンはこういう組織なのか。自由に話し合うのにとどまるのであれば対外的に発信することはない。それでもいい。でも、スポーツと安全というテーマでやるのであれば、サロンとしてはどう考えるのか、どうして

いくべきか、について、何らか発信したい。「重い」というのは、集約する場がないので勝手にまとめられてもという部分か。

本多：フットサルの大会をやり始めたときも同じような話があった。サロンで議論することが楽しいということはあるけど、U-18フットサル大会があるべきという話になってこの大会ができた。動かしていくのは大変で重いけど、やりがいはある。誰かが担えばできる。たとえば関さんが中心になって安全のことをやっていて、何か発信できたらいいと思う。関さんが汗を流していただけるのであれば、U-18フットサルに加えてもう一つ新しいゴール、事業が生まれる。やるべき事業をサロンで見つけて実行していくのは理解できるしやってもらいたいと思う。女子のサッカーも、芦屋で事業を立ち上げようと思っているので、連携することがあるのではと思う。

関：発信するのであれば事前の準備が必要。公開シンポでやるのだったら、何を発信するのか事前に準備しておく。けっこう大変。やりっぱなし感があっていつももったいない。誰もNPO法人サロン2002のことを知らないし。

笹原：サロンとしての意見を出すのは重いと言ったが、振り返ってみると、部活動を語るシンポジウムでは、演者の選択から部活動の問題を提起するようなトーンであった。あと、リーグ戦を広めましょうというのも、機関決定したわけじゃないけど自然に皆でその方向を向いていた。頭部外傷についても反対する人はいない。

中塚：この話、公開シンポジウムと月例サロンの一般的な関係を言っているのではなくて、今回のテーマに限っての話ですよ。ゴールを設置しやすいテーマだしタイムリー。だからこのようなやり方はあり。

笹原：スポーツの安全は、スポーツを通してのゆたかなくらしづくりには欠かせない話。それを一つの軸に置いた方が、JFA100年よりもおもしろい。

中塚：両方やりませんか？ オンラインでやるのなら大して準備は要らない。たとえばJFA100年は神戸を主会場として賀川さんにもワンポイントで登壇していただく。2021年にサッカー周辺で起きたことを取り上げる。WEリーグのこと、JFAのシンボルマークのこと、ヘディングの指導の話、オリパラの話…。もう一つは公開サロンの続きで、スポーツと安全のこと。サロンとしてのメッセージを発信していく形で。二段構えで行けるのではないかと思う

嶋崎：話が戻りますが、一般的な話ではないと言われましたが、僕は公開シンポと月例サロンの一般的な話のつもりで発言しました。公開サロンの積み重ねがあって公開シンポジウムにつなげていくのがよいのではないかと考えて発言しました。個人的にはそう思います。

中塚：たとえば一本化できないこともある。オリンピックは開催すべきか否かというのはまさにそれ。サロンとしての見解をどこかに発信することも考えたけど、いろんな人がいる中でサロンとしてこう考えるというのはしにくい。中塚はこう考えるというのはできるけど。サロンはむしろそういうことをしないでここまでやって来たつもり。いろんな意見があっただけいい。一本化できる場合は、事業化までつなげる。GKのアタマ問題はそういうのにはなじむ。

嶋崎：自分もすべてそうすべきだとは思っていない。基本線としてはそういう考えで月例会の準備するのがやりやすい。基本線が積み重ね方式にしておいた方がいいという考え方。

関：サロンがどういうことを言っているのかを発信していかないと、外向きの活動にならない。外向きに何かしていくのですか、それとも、中で話し合いをすることにとどまるのですか、根本的にそこに行きつく。面白そうなことを打ち出し継続的にやっているところに人が集まるのではないかな。どっちを目指すのか。

中塚：テーマによる。サロンとしてのメッセージを一本化して外向きに発信できるものもあれば、さまざまな意見を出し合って聞き合って消化しあう、文字通り勉強会のときもある。いろいろあっただけいいと思う。小池さんどうですか。

小池：ディスカッションによって理解を深める機能があるけど、何らかの形で発信していくことにトライはしたいですね。とくにオリンピックのようなことで誰にでも受け入れられる意見はないけど、理念の軋みをみんな感じている。賛否両論を踏まえ、問題点について声を上げることは世の中に対してNPO法人が求められていると思う。オリパラ教育に携わる人間として、シンポジウムとは別のチャンネルでトライする方法もある。インフラになるのが月例サロンでありシンポジウム。一定の方向性を目指すことには共感する。

中塚：ここは意思決定の場ではないけど、もたもたしていてもしょうがないので、二本立て作戦で進めていくのでどうでしょうか。

小池：いいと思います。

関：7月は決まっています、8月は当初私が担当となっていたが。

中塚：8月はWEリーグ。9月、10月にスポーツと安全で、11月に公開シンポジウムその1。嶋崎さんどうですか、そんなイメージです。

嶋崎：10月が月例会300回なのでそこはあけておいてと言われていたが。

中塚：別にいいんじゃないですか。

嶋崎：9月、10月で頭部外傷、感染症で続けて。

中塚：そうすると11月にシンポジウムをやっておきたい。11月と12月が公開シンポ。

嶋崎：スケジュールが決ればそれに合わせて動くだけ。決定は理事会等で。ほかの理事の意見を聞かないといけない。可能であればそのように動くつもり。田嶋幸三さんの奥さんの話がよかったので皆さんにも聞いてほしい。中塚さんにつないでもらえますか。

中塚：田嶋さんの奥さんはどこかの委員になっておられましたよね。ちょっと聞いてみます。

嶋崎：ダメならほかの方。頭部外傷については関さんの方でよろしいですか。

中塚：9月か10月ということになる。もしくは、それをシンポジウムの中でどんとやってもらっていいんじゃない？ 月例会ではすでに一度やっている。GKのアタマの話。

関：スポーツと安全がシンポジウムのテーマ。大枠を広げるのが。

嶋崎：脳震盪で行くのであれば。

中塚：スポーツと安全の登壇者のイメージは？

関：脳震盪やヘディングの関係でいうと、ガイドライン発出に関して協会の方、小中の指導者、中京大の先生、お子さんが被害にあわれた方。

嶋崎：それがシンポジウムですよ。

関：スポーツと安全だともっと広い範囲になるじゃないですか。私から公開シンポジウムを提案するならそういうメンバー。最終的にはこういうところに注意しないとねということで、スポーツ用品、臨床医学の現場、学校教育関係者に発信するメッセージを用意する。ガイドラインで終わりではなく、サロンで発信する。

嶋崎：それがシンポジウムでいいのでは。それにつなげるように逆算で考える。スポーツと安全にするといろんな話題に触れつつ、最後サロンで発信したいことを公開シンポで。スポーツと安全のテーマのつながりはあるのでいいのではと思う。公開サロンとしては熱中症、感染症、脳震盪の話があり、最終的にはそのシンポジウムにつながっていく。網羅的に取り上げるのではなく、フォーカスする。

関：だとすると公開サロンで私が話すのは何になるのでしょうか。

中塚：そこが気になっていました。

嶋崎：そこはもう一回考え直しになる。

関：個人的にはマウスガードのことをやりたい。いま最先端でどうなっているのか。マウスガードを買ったものすごくいい。遠藤航が付けている。ああいうのを作っている人の話、効果がどうなのかをサロンの方々にお知らせしてやってみたい。

嶋崎：ラグビー界では早くからマウスガードが義務化されていた。歯科医の方もいるので、そういうことを話してくれる方はいくらでもいらっしゃいます。まずサロンの中にそういう関係の方がいるかを調べて、いなければ外から来ていただいてもいい。

中塚：シリーズもので公開サロンでやっているものの拡大版を、11月と言ったけど、10月ぐらい。オリパラの振り返りもどこかで。

関：10月の公開サロン300回をあてますか。

中塚：そうしましょう。10月の月例サロン300回を公開シンポにしましょう。

嶋崎：9月に一回公開サロンをやってということですね。

中塚：そうです。12月にも公開シンポをやりましょう。12月の方は私の方で考えます。

嶋崎：ちゃんと理事会にはかる。次回の理事会はいつ頃ですか。動くことは動いておきますけど、議決が必要だと思いますので。

中塚：次の理事会をまだ決めていなかったですね。7月にやりましょう。

ということで予定の6時をちょっと過ぎてしまいましたが、ノンアルコールの場はこんなところでいいですかね。残れる方は飲み物を用意して続きをやりましょう。

以上
続きはオンライン懇親会